

本書の構成と使い方

ほんしょ こうせい つか かた

◆ 学習する漢字について

『漢字たまご 初級』で学習する漢字は162字です。『漢字たまご 初級』『漢字たまご 初中級』の

2冊で、日本語能力試験N5、N4レベルの漢字の学習ができます。

各課で学習する漢字は、次の3つの種類に分かれています。

提出漢字：読み方と書き方を学習します。

読める：意味と読み方がわかればよい漢字です。

後の課で「提出漢字」として再提出されます。

見て、わかる：サインとして意味が理解できればよい漢字です。読みも書きも問いません。

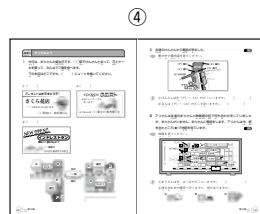
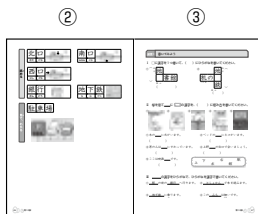
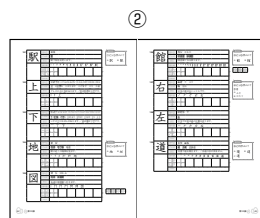
後の課で「提出漢字」として再提出されます。(一部例外もあります)

◆ 本書の構成

- ① 「漢字のはじまり」：漢字の成り立ちについて学習します。
- ② 「漢字のきほん」：漢字の基本的なルールについて学習します。
- ③ 第1課～第15課、「漢字のパーツ」
- ④ 「楽しく覚えよう1/2/3」：漢字のパーツ（構成要素）、形声文字、記憶法を紹介しています。
- ⑤ 「もう少しやってみよう」：第1課～第15課、漢字のパーツの復習問題です。

◆ 各課の構成

- ① タイトルページ
- ② 「提出漢字」「読める」「見て、わかる」
- ③ 「練習1：書いてみよう」
- ④ 「練習2：やってみよう」
- (⑤ コラム)



◆ ルビについて

「練習1：書いてみよう」：文の中で漢字の読み方や書き方を問う場合、既習漢字にはルビをつけていません。

「練習2：やってみよう」：情報を取るタスクの素材（例：図表、ポスター、地図など）にはルビをつけていません。

◆ 各セクションの進め方

① タイトルページ

タイトルページのイラストには、その課で学習する漢字が入っています。学習する漢字がどんな場面で使われているのか、その課の漢字を学習することで「何ができるようになるのか」ということを意識しましょう。知っている漢字がある場合は、どこで、どんな状況でその漢字を見たのか、どんな意味か、どう読むかなどを考えます。

② 「提出漢字」

提出漢字の通し番号
ていしゅうかんじ とお ばんごう

この段階で覚えてほしい読み方が太字になっています。
だんかい おぼえ よ かた ふどし

熟字訓など特別な読み方は「ことば」の欄に > で紹介しています。
じくじくん など とくべつな よみかた は 「ことば」の欄に > でしょうかいしてあります。

32	年	読み方	● ネン とし			
		ことば	● 1年 年 <今年> 去年 来年			
	例文	1年は365日です。／今年は何年ですか。				
	書き順	ノ 一 二 三 年				
	年					
	memo					

日本語能力試験N4、N5レベルの語彙を中心に、課のトピックに合ったものを載せています。太字になっている語は、N4、N5レベルの漢字が使われている重要語やそれ以外でも覚えるのが望ましいと思われる語です。

母語訳、オリジナルの記憶法、イラストなど、自由に書けるスペースです。

ここでは、タイトルページで紹介した漢字を1字ずつ練習していきます。「漢字のはじまり」「漢字のきほん」「漢字のパーツ」「楽しく覚えよう」などを参考に、漢字の覚え方を考えながら練習しましょう。できるだけいろいろな覚え方のアイディアに触れ、自分なりの漢字学習の方法を見つけましょう。「ポイント」では、字形や読み方、送り仮名、パーツ（構成要素）など、間違いやすいところを確認します。

* 「漢字たまごのヒント&ポイント」が、下記のウェブサイトからダウンロードできます。

アクラス日本語教育研究所 (<http://www.acras.jp/>)
にほんごきょういくけんきゅうじょ

③ 「練習1：書いてみよう」

②の練習後、提出漢字の読み書きの力をつけるための練習をします。漢字をパーツに分けたり(分解)、パーツから漢字を作ったり(結合)して、漢字が複数のパーツで構成されていることを意識化します。同時に既習の漢字と関連付け、提出漢字の整理も行います。さらに、意味のグループでまとめたり、音読み・訓読み、形声文字・音符に注目した練習もします。ここでは、同様の練習を繰り返し行い、記憶を定着させていきます。

④ 「練習2：やってみよう」

実際の接触場面に近い状況で、必要な情報を読み取ったり、漢字を書いたりできるよう、実践練習をします。各タスクとも、正しい解答を得るのはもちろんですが、解答に至る道筋・タスク達成の方法を学ぶことが大切です。どのような点に着目すれば正しい情報が得られるか、未知の漢字語彙があった場合、その意味をどのように推測するか実際に体験します。

情報取りには、書かれたものから読み取るものと音声を聞いて書かれている内容と一致させるものの2つのタイプがあります。どちらもまずは1人で、辞書を使わず、自分の力だけでチャレンジします。音声を聞いて答える問題では、聞く前に必ず情報部分を見る時間を取ります。タスクの情報量は多く、未習の漢字や語彙も含まれていますが、その部分を読んだり、意味を確認したりする必要はありません。既知っている知識をフルに使って、わかる範囲の中で、いかに必要な情報を得ていくかが重要です。

◆ 凡例

◎ 02 CDとトラック番号を表しています。

【👁️】 CDを聞く前に、その場면을把握するため、まず問題の図を見ることが示されています。

【👂】 聴読解問題が始まることを示しています。